

ライフスタイルが多様化する時代の 相互援助活動のカタチ

～ 日野市ファミリーサポートのシェアリングサービス
への挑戦から見たこと



2020年 2月18日(火) 14:00～16:30

日野市多摩平の森産業連携センター (PlanT)

主催：日野市 協力：KDDI株式会社 平成31年度総務省「シェアリングエコノミー活用推進事業」

地域でのつながりの大切さが言われ続けている一方で、孤立、コミュニティの弱体化も進んでいます。人々のライフスタイルが変化中、地域の助け合いの形も変わる必要があります。日野市では、20年以上の実績あるファミリーサポートの良さを活かしながら、オンラインで依頼者と提供者が直接やりとりしながら助け合いを進めるSNS「トクイノカケハシ」を活用した仕組みづくりに挑んでいます。

本シンポジウムでは、立教大学の萩原なつ子先生から、つながりや助け合い、参加型の課題解決には何が必要なのかをお話しいただいた上で、日野市の経験を基に、現代における相互援助活動のあり方、次の展開を、みなさんと考えたいと思います。

日野ファミサポSNS実証実験

ファミサポの良さを活かすために、提供者・依頼者にコーディネーターも参加した3者チャットでマッチング



- ・地域のニーズと担い手がお互いに顔の見える関係に
- ・利用者から見えづかったコーディネート過程が見える化
- ・ファミサポ+一般相互支援で230名が登録

基調講演

ライフスタイルの変化に応じた互助の仕組みづくり 萩原なつ子教授 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授、日本NPOセンター代表理事。東京都豊島区で、女性にやさしいまちづくりをめざす「としま100人女子会」「としまF1会議」などの仕掛け人として活躍するなど、地域のきずなを育てる知恵、市民力を活かしたまちづくりの第一人者。著書に「市民力による知の創造と発展」。専門は環境社会学、ジェンダー論、開発社会学、非営利活動論等。



報告

日野市ファミリーサポート事業のSNS導入の実践から

○スマホ時代の市民の相互援助活動への挑戦

土屋和子さん 日野市ファミリーサポートセンター 事務局長

○地域の互助サポート・システム「トクイのカケハシ」共創への挑戦

青山大起さん KDDI株式会社 パーソナル事業本部



ワークショップ

助け合いが地域に広がるには？

ファシリテーター: 広石拓司 (株)エンパブリック代表、コメント: 萩原なつ子教授



参加・お問い合わせについて

参加希望の方は日野市企画経営課までご連絡下さい。

①お名前 ②ご所属 ③連絡先

日野市企画経営課 戦略係 鈴木
Tel:042-514-8038 Fax:042-581-2516
E-mail :senryaku@city.hino.lg.jp